

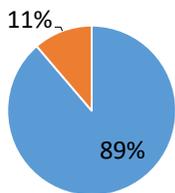
板橋区コミュニティ・スクールに係る アンケート調査《学校回答用》 まとめ

令和6年度

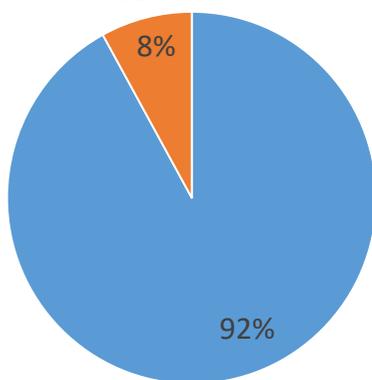
1

Q1 会議の開催数(年5回)は適当だと思いますか。

令和5年度



令和6年度



■ 適当 ■ 適当でない

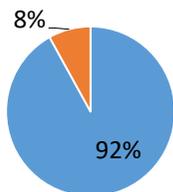
会議の開催数が適当だと回答した学校は約92%であった。

適当でないとする回答の中には、6回以上開催する必要があるとの意見もみられた。

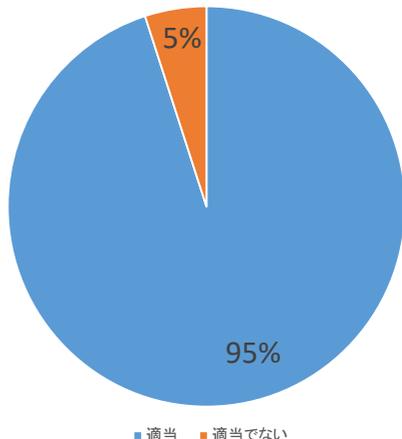
2

Q2 委員の人数(地域委員10人以内)は適当だと思いますか。

令和5年度



令和6年度

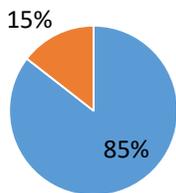


委員の人数は適当であると回答した学校は約95%であった。適当でないとする回答の中には、10人以上とする必要があるとの意見もみられた。

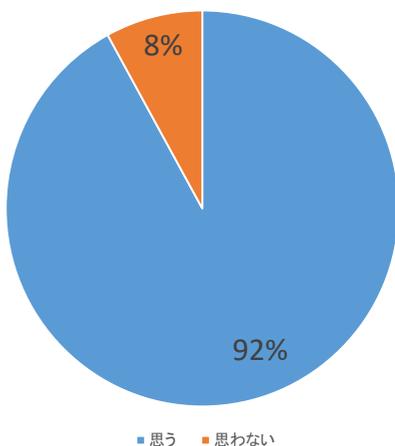
3

Q3 熟議のテーマ設定は適切であったと思いますか。

令和5年度



令和6年度

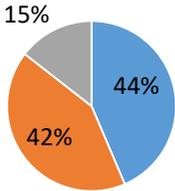


約92%の学校が熟議のテーマ設定が適切であったと回答した。思わないと回答した中には、熟議のテーマについては、委員から意見が出ることはなく、学校で考えているため、大変さを感じる学校もあった。

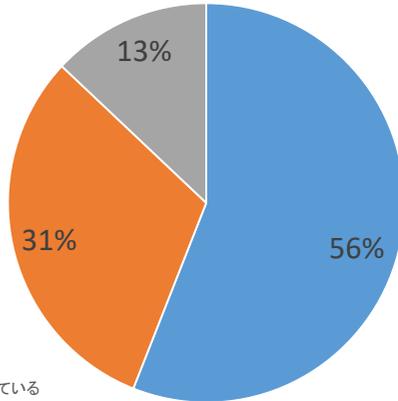
4

Q4 熟議のテーマ設定に委員長又は委員の意見を反映させていますか。

令和5年度



令和6年度



- 毎回している
- 1回はしている
- していない

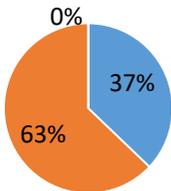
約87%の学校で、熟議のテーマ設定に委員長又は委員の意見を反映させていると回答した。

昨年度と比較し、「毎回している」の割合が増加した。

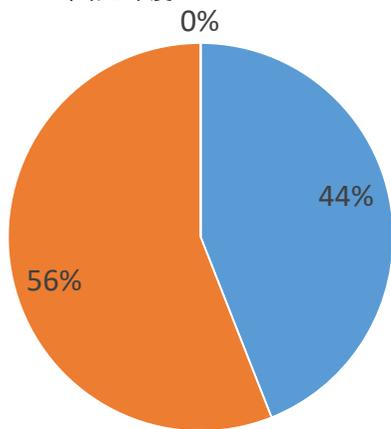
5

Q5 学校の課題や悩みについて、委員と共有できていると思いますか。

令和5年度



令和6年度



- できている
- 一部共有できている
- できていない

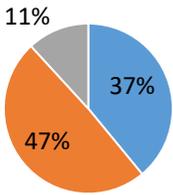
昨年度と同じく、全ての学校において、委員と課題や悩みを共有できていると回答した。

また、できていると答えた学校の割合が昨年度よりも約7%増えた。

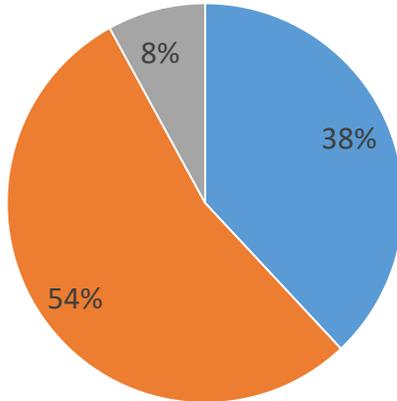
6

Q5-2 (すべて共有できている・一部共有できていると回答した学校)
学校の課題や悩みに対して、委員から解決策等が出てきますか。

令和5年度



令和6年度



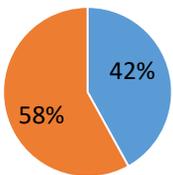
- 具体的解決策まで出る
- 意見は出るが解決までには至らない
- あまり意見は出てこない

問5で課題や悩みを共有できていると答えた学校のうち、具体的解決策まで出る学校が約38%と昨年度とほとんど変わらない結果だった。委員から意見が出る学校の割合は約8%増加した。

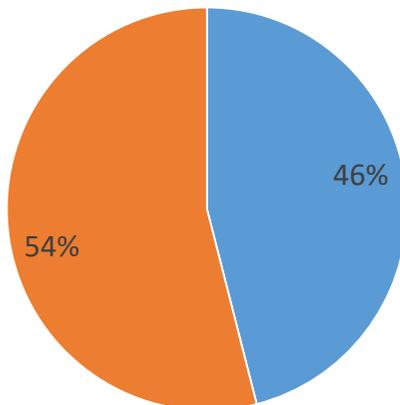
7

Q6 学校経営方針や基本的な方針について、委員から意見はありましたか。

令和5年度



令和6年度



- ある
- ない

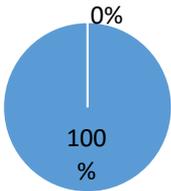
C S委員会の重要な機能の1つである基本的な方針の承認について、委員から意見があったとする学校は約46%で、昨年度より約4%増加した。

学校経営方針の説明の際には、なるべく専門用語を用いず、平易な言葉で説明する等、委員が理解でき意見が言いやすい環境を整えることが求められる。

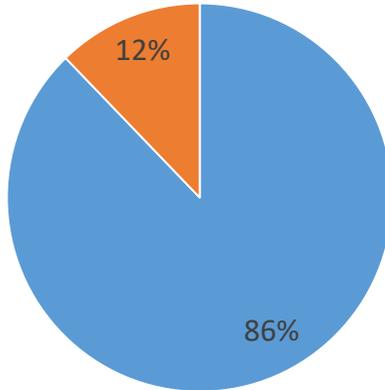
8

**Q6-2 学校経営方針や基本的な方針について、委員から意見はありましたか。
(あると回答した学校) 出された意見を当該方針に反映させましたか。**

令和5年度



令和6年度



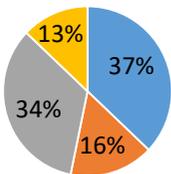
■ 反映させた ■ 反映できなかった

意見を反映させた学校は、約88%で、昨年度に比べて減少したが、委員からの意見が増えているため、全ての意見を反映できなかったり、反映しづらい意見があったりした影響と推測される。

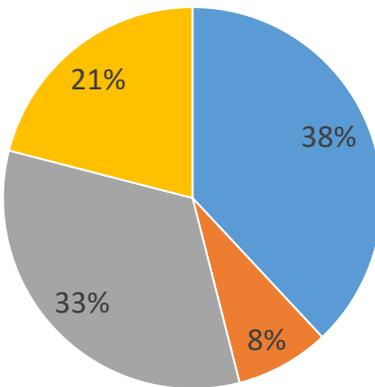
9

Q7 熟議を実施する際、積極的な発言や意見をまとめるなど、実質的に熟議の進行を担っている方を選択してください。

令和5年度



令和6年度



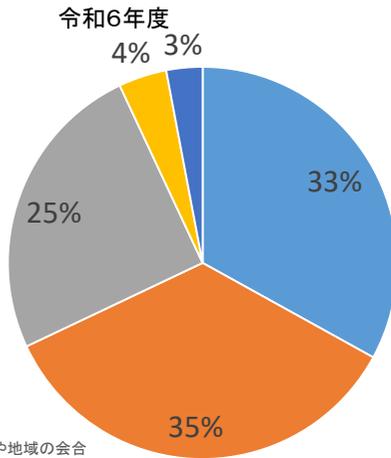
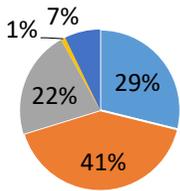
■ 委員長 ■ 校長 ■ 副校長 ■ その他 (地域コーディネーターなど)

熟議の進行を校長、副校長以外が担う学校が約9%増加した。学校がメインで進行する学校はまだあるが、委員長をはじめとする地域委員が進行を行う学校が増えてきている。

10

Q8 CS委員や地域コーディネーター、iCS活動についての紹介や周知方法に関して、当てはまる項目を全て選択してください。

令和5年度



- iCSだより
- 学校だより
- 保護者会や地域の会合
- 周知していない
- その他

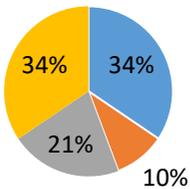
iCSの活動の紹介や周知について、学校だよりで行っている学校が最も多かった。その他の回答として学校のホームページへの掲載や独自のリーフレットを作成している学校があった。

保護者や地域の方にiCSを浸透させるためにも、今後も継続して行うことが望まれる。

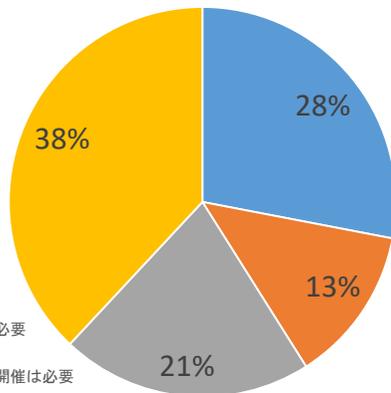
11

Q9 CS委員会の開催方法として、書面開催及びWEB開催は必要だと思いますか。

令和5年度



令和6年度



- 両方必要
- 書面開催は必要
- WEB開催は必要
- どちらも必要ではない

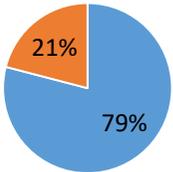
書面開催及びWEB開催が必要だと思う学校は、約62%であった。

より深い熟議を行うためには、顔を合わせて会議を行うことも重要だという考えの学校も多くみられる。

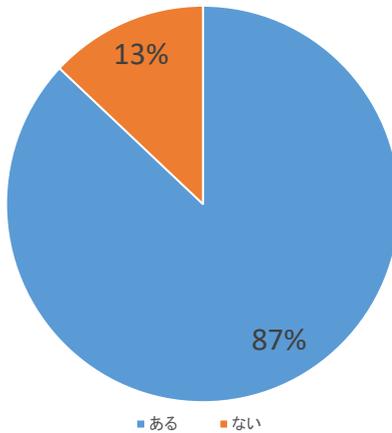
12

Q10 委員に会議以外(運動会等の行事・卒業式等の式典など)で委員として参加している、もしくは参加してもらいたい行事はありますか。

令和5年度



令和6年度



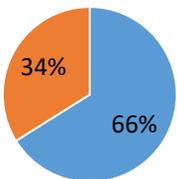
約87%の学校が、委員に参加してもらいたい行事があると回答した。特に、卒業式や入学式等の式典、運動会や音楽会等の行事が多くみられた。

合唱コンクールの審査員を委員の方をお願いしたいという意見もあった。

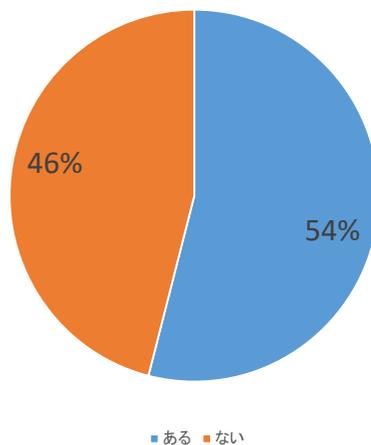
13

Q11 委員の人選について、課題と感じていることはありますか。

令和5年度



令和6年度



委員の人選に課題を感じている学校は約54%であった。

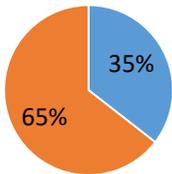
【主な意見】

- 委員の高齢化により、今日的な教育活動の理解にズレが生じる。
- 委員の変更、新しい人材の発掘が難しい。
- 学校と少し離れた立場である第三者の有識者の発掘。

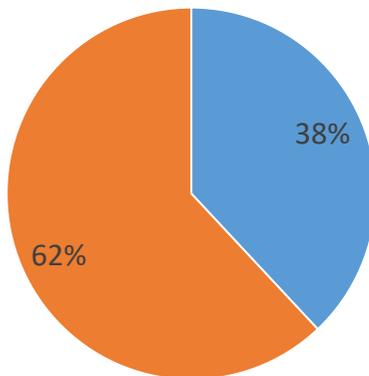
など
14

Q12 委員の任期に更新限度を設定した方がいいと思いますか。

令和5年度



令和6年度



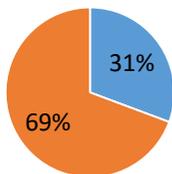
■ 思う ■ 思わない

約38%の学校が、委員の任期に更新限度を設定した方がいいと回答した。
3年～5年程度の回答が多く寄せられた。

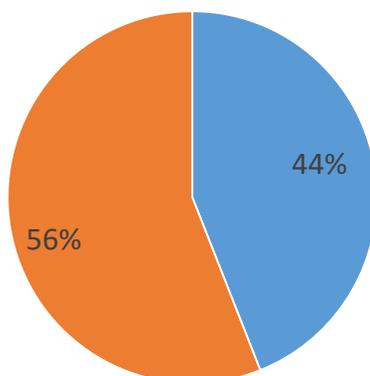
15

Q13 委員長の任期についても定めた方がいいと思いますか。

令和5年度



令和6年度



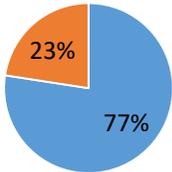
■ 思う ■ 思わない

約44%の学校が、委員長の任期についても定めた方がいいと回答した。
3年程度との回答が最も多く寄せられた。

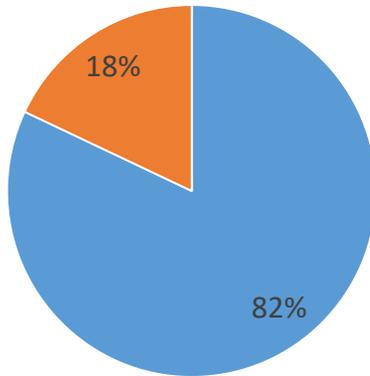
16

Q14 現在委嘱されている地域コーディネーターの人数は足りていると思いますか。

令和5年度



令和6年度



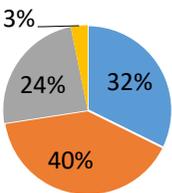
■ 思う ■ 思わない

地域コーディネーターの人数が足りているとする学校は約82%であった。後継者不足等の課題を抱えている学校も多い。

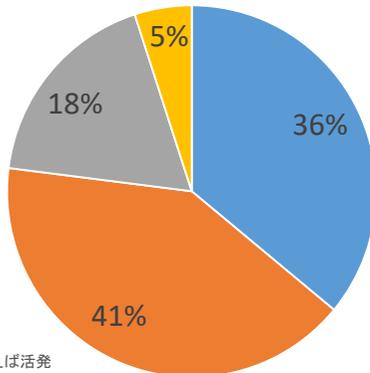
17

Q15 貴校の学校支援地域本部の活動は活発だと思いますか。

令和5年度



令和6年度



■ とても活発
■ どちらかといえば活発
■ どちらかといえば活発ではない
■ 活発ではない

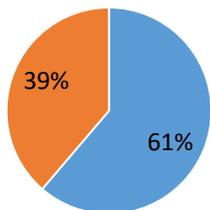
「とても活発」、「どちらかといえば活発」と回答した学校は、約77%であり、昨年度よりも約5%増加した。

地域コーディネーターの活動時間も年々増加傾向にある。

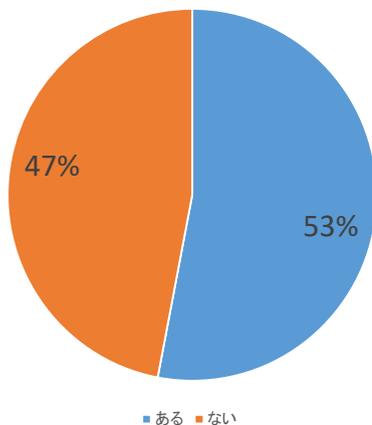
18

Q16 学校支援地域本部事業について、課題と感じていることはありますか。

令和5年度



令和6年度



学校支援地域本部事業について、課題があるとする学校は約53%であった。

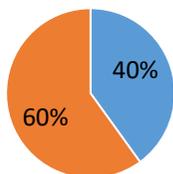
【主な意見】

- 受け身であり、主体的ではない印象を受ける
- コーディネーターの人材確保
- 平日の昼間の活動が難しく、依頼しづらい
- 活動のための予算が少ないなど

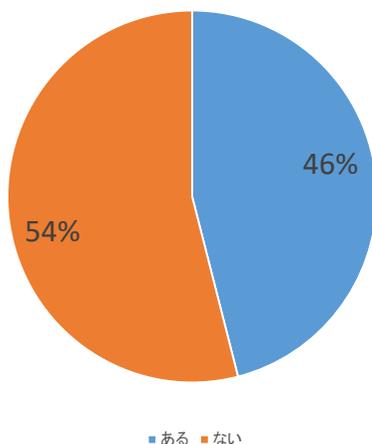
19

Q17 学校支援地域本部を通さず、直接ボランティアとつながって支援活動を行っている例はありますか。

令和5年度



令和6年度



直接ボランティアとつながっている学校は、約46%であった。

学校支援地域本部が実施される前からの繋がりが継続していると推測される。

【主な取組】

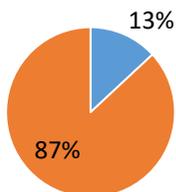
- 学習支援ボランティア
- 放課後学習教室ボランティア
- 校外学習見守りボランティア
- 別室見守りボランティア

など

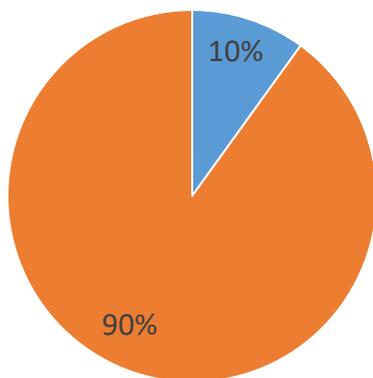
20

Q18 統括コーディネーターに相談したいことはありますか。

令和5年度



令和6年度



■ある ■ない

統括コーディネーターに相談したいとする学校は約10%であった。

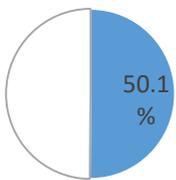
【主な相談内容】
 ■地域主体のICS運営とするには
 ■継続的なボランティアの募集方法
 ■より良い支援体制についての実践例

など

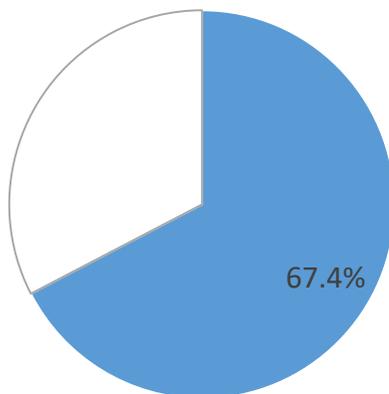
21

Q19 地域の力を活用することで、自身の業務量・負担が減ったと感じている教員はどのくらいいますか。

令和5年度



令和6年度



地域の力を活用することで業務量等が減ったと感じている教員は約67.4%であった。昨年度から、約17.3%ほど増加した。

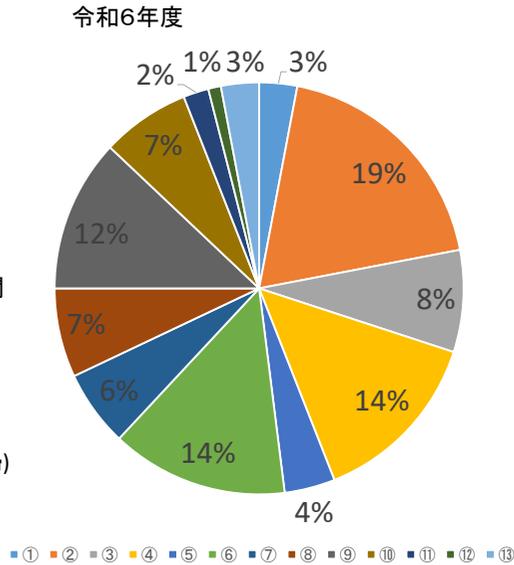
総合的な学習の時間や不登校支援で負担が減ったと回答した学校が多かった。

22

Q19-2 地域の力を活用することで、具体的にどのような点で負担が減ったと感じますか。

令和5年度
設問なし

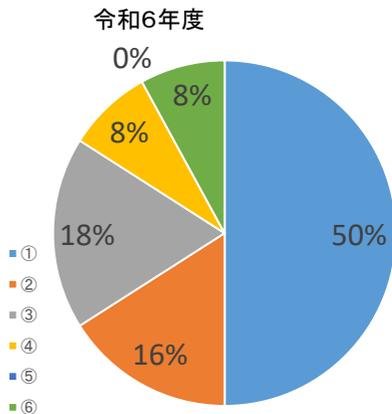
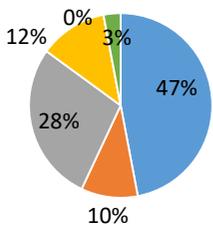
- ①授業準備
- ②授業支援
- ③キャリア教育
- ④総合的な学習の時間
- ⑤特別活動
- ⑥児童・生徒の見守り
- ⑦不登校支援
- ⑧居場所づくり
- ⑨学校行事(周年行事)
- ⑩校内整備(美化・清掃)
- ⑪部活動補助
- ⑫保護者対応
- ⑬その他



地域の力を活用することで負担が減ったと感じている具体的な業務について、②「授業支援」④「総合的な学習の時間」を挙げる学校が多くみられ、教員が質の高い授業づくりを考える時間の確保に貢献している。また、⑥「児童・生徒の見守り」を挙げる学校も多く、子どもたちの安心・安全につながっている。

Q20 「地域とともにある学校」を実現するにあたり、最も必要だと思う要素を1つ選択してください。

令和5年度



①を必要とする学校が約50%、②を必要とする学校が約16%であった。学校と地域が目標・ビジョンを共有するための熟議について重視する学校の割合が増えた。

- ①地域との連携・協働が不可欠だとする学校・教職員の意識
- ②学校と地域が目標・ビジョンを共有するための熟議の実施
- ③地域の特色を生かした教育活動の展開

- ④地域人材の学校経営への参画
- ⑤地域への学校施設の開放
- ⑥その他

Q21 iCSに関して、教育委員会に対する要望、又は悩みや課題等がある場合はご記入ください。

主な意見の内容とそれに対する回答

意見	回答
<p>年度当初の事業説明および熟議の方法周知 運営主体はCSにあることの周知など</p>	<p>年度初めにCS委員初任者向け研修の開催を予定しており、初任者だけでなく継続の方に向けても広く周知していく。また、各種研修でiCSの仕組みについて説明していく。</p>
<p>各CSが自校CSの課題解決のために行える研修会の講師予算や視察予算の確保</p>	<p>コミュニティ・スクールや学校・地域連携に造詣が深い人材を派遣し、CS委員会の視察、アドバイスを行うアドバイザー派遣を実施している。毎年派遣校からは課題解決の糸口が見つかった、第三者にCS委員会を見てもらって良かったなどのお声をいただいているので、ぜひ活用していただきたい。</p>
<p>教職員全体にも、地域全体にも、iCSの目的や意義が伝わりきれていないと感じる。だから熟議のテーマに事欠いたり、人材が不足したり、教員の負担感に繋がっている。地域の力が教育業界に必要なのは確実なので、もっと周知して欲しい。</p>	<p>教職員や保護者等地域に対するiCSの周知は課題の一つである。学校と地域が同じ目的を持って一体となり推進していくことに意味があるため、区としても周知に力を入れていきたい。</p>